



校長 宮崎 陽太郎

「還暦」からの白陵

同窓会の皆様には、日頃から本学園の教育活動に対してご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。今年度も終盤を迎えています。現在の中学・高校の一年生は、白陵中学・白陵高校のそれぞれ第六十一期生です。つまり彼らは、創立六十一年目の白陵で勉学に勤しんでいることになり。今年度はコロナ禍を乗り越え、やっとフルバージョンの「白陵祭」が開催できたのが大きかったなあ、と振り返っています。

運動会と文化祭とを併せて「白陵祭」と呼んでいます。今年度の白陵祭は第六十回運動会と第五十八回文化祭でした。これまでに運動会は第五十七回と第五十八回が中止になりました。つまり中止になって、回数としてはカウントしていません。回数において、文化祭が常に運動会より二だけ下回るの、運動会が創立二年目から行えたのに対し、文化祭は創立四年目からスタートしたことに由来します。「文化」は時間がかか

るということでしよう。その文化祭ですが、この九月、五千人を超える来場者があり、盛り上がりました。これまで、白陵校内に五千人を超える来場者を迎えた日があったでしょうか、生徒を含めると六千人を超えたことになり。今回、生徒会が考えた白陵祭のテーマは「新生」でした。これからの白陵を自分たちで創っていくぞ、という若い力の躍動した日々となりました。

白陵の旧校舎は、同志社大学の新町キャンパスにあった教室棟とよく似ていました。三木学園長は、白陵の校舎を建てるにあたって、それを思い浮かべたのでしょうか。同志社の創立者新島襄の遺言には、「同志社において、個儻不羈なる書生を圧束せず、務めて其の本性に従い、之を順導するべし」とあるそうです。即ち、才気がすぐれ独立心が旺盛な学生を型にはめず、その気質を生かして育てよ、ということになります。そこで学園長は、中学から教えるにあたって、まずは「研究と訓練」を置き、能力を高めてからの「独立不羈」としたのかもしれない。白陵が「還暦」からの白陵が目指す道は、学園長がめざした最高峰「正明閣達」へ導くための確かなベースキャンプとなることではないかと思う今日この頃です。



教頭 久保 博彦 (14期生)

同窓会の功

「蛍雪の功」の挿話にある様に、「窓」は苦勞して勉学に励むことの象徴であり、「同窓」とは本来、「同じ学び舎で苦勞して学んだこと」を表す。しかし、私は白陵での「同窓」とはむしろ文字通り同じ窓から見聞した同じ景色の記憶を共有することではないかと思っている。

その景色は何期生か何年生によつて異なるし、同じ期生・学年でも人が違えば異なる。建て替え前の第一校舎は南側にベランダがなく、窓際の席からは授業中自席に座ったまま、窓越しに外の景色を直接見ることが出来た。私などは席替えて窓側の席が当たると、来る日も来る日も朝から晩まで授業を受けるしんどさも少しは和らぎ喜んだものだ。夏の補習の多くもくと発達した入道雲、午後遅い時刻の授業での西の端に沈み行く夕日の紅色。同じ様にベランダのない建て替え前の第二校舎の南側には柔道場まで続くような

と問うと、ほぼ全員が挙手をした。質疑応答では、大人が返答にビビるような今までに無い深い高度な質問をされた。私は経験を集約し応えた。白陵生は刺激し合って成長している。とんでもないリアル集団だ。凄い空気が流れる。それが白陵魂だ。授業の会話で日頃から切磋琢磨して自分を高めようとしている姿が素晴らしい。社会的欲求が満たされて変容願望しているのだ。先生方は毎日、この生きる力を授業で感じていらつしやる。なんて素敵な学校なんだ。終了後、中学部長の城谷先生がすれ違った女子生徒に感想を聞く。生徒は「一生、忘れません」と笑顔。城谷先生は、この一言に集約されると話された。私たちふたりは、心の中で密かに成功感に浸った。これだから先生稼業をやめられない。生徒や先生共に生き甲斐が生じる。

という、今よりはるかに広大な竹林が鬱蒼と生い茂り、そよそよという風が竹の葉と奏でる音が空け放った窓から聞こえて来る。そんな時は教師の教科書の説明など聞こえるはずもない。三角公園と池が整備されてからは、六月など空け放った窓から蛙のにぎやかな鳴き声が聞こえて来たかと思うと、にわかにかが暗くなり細い細い針の様な雨が急に落ち始める。かと思ふと、蛙の鳴き声が急に止んだと気付く間もなく薄日が射している。第三校舎、現理科棟の南を見れば、記念棟も技芸棟もなく一面に木々が生い茂り、まだエアコンのなかった風のない夏の日など、空気もどよんと重く、あたかも密林の様相を呈する。それぞれの頭に残るそれぞれの景色の全てが白陵の「同窓」であり、その集合体こそが白陵同窓会であろう。



寄稿 日本の学校に於けるが、ワンの夢じゃー



滝井 なみき (3期生) E表現研究所主宰 絵本研究家 性教育クリエイター

三木学園長の白陵魂が生徒に大迫力で響いた。当時、三期の天野会長や沼田前会長には夢があった。刺激された私は「子ども味の味方になる」と決心。大学合格した私に園長が「名伯楽さがせ！」という言葉を送ってきた。大学では身体表現の教授に師事し、小学校教員になる。児童の絵本への集中力に驚き研究。読書療法には主人公に同一化するカタルシス効果があり「いないいないばあ」では「ばあ」で笑う。笑う行動を起こす。これが「絵本療法」だと気付く。ある日、実母が事故で即死し家業手伝いするために退職。三ヶ月後、出産し絵本に実母を重ねながら子育てをする。数年後、夫の転勤でパナマ共和国で生活。帰国後体験記を出版した。海外でエイズを知り、性感染症予防が必至と、静大附属静岡中学でエイズや性教育を

柱に生徒と手探りで授業をした。「どこから生まれたの？」に、答え難い人が多い現状に、両親が出産を営む部分を「おだいじ」と呼んだら、生徒は目を輝かし「おだいじ だいじ」と認識できた。それ以来、大人が躊躇する性をカタカナにし、明るいセイ（生、性）教育の構築を目指す。恩師の後任として静岡大学で教科教育法の身体表現の講義を担当した。市民講座の受講生がもっと学びたいと行政の応援で「なみキッズ」を組織した。「公民館デビュー」を企画し「子育てで中こそ輝こう」を合言葉に育つ姿が嬉しかった。ある受講生の女兒が事故で脳損傷し、絵本で必死に支援したりハビリテーション事例が原著論文と認められる。全国初の『絵本療法講座』を開催。受講料を原資にE表現研究所を発足した。

絵本原画展・絵本講座・子育て講座・魔女パーティ・赤ちゃんで大学講座・茶事などの企画で所員が講師になりスキルアップを目指した。E（いい）社会をめざすE表現。Energy元気になるようにEnchant魔法をかけている。活動の中で「仲間が育つのを喜ぶ人が、自らも育つ秘訣」だと悟る。その秘訣が講演会で存在した。私が「白陵、好きですか？」

人が失敗する原因は性教育の欠如が多い。戦争の増加で性虐待が増える。自分で自分を護る場所の仕組みを知らないと護れない。また少子化対策で授業でも喜び多い出産の仕組みを伝えたいが、指導要領にないので教えられない。Environment環境を変えたい。迷った時には心の中で園長に相談した。「数学や英語は高校並みでし



よ。園長どない思う?」「お前もやっとなんか不羈じゃ。子どもの味方したらええ。世界にひろげなさい」講演前、企画手腕に長けた打浪研修部長と打ち合わせた。校長は「おだいじ」にしたら一言でええな」と、采配を振られた。「園長は私の心の中。宮崎校長は私の頭に入ってるね」生涯学べる「白陵プラス大学」があれば、是非学びたい。先日の寮の食事が美味しかったのでランチ会しよう。同窓会において、応援させてね。私にとつての名伯楽は家族や今まで出会った方々だった。「白陵ありがとう」

追悼



故 藤田 家将 先生

令和五年十二月九日、藤田家将先生が逝去されました。謹んで卒業生のみなさんにご報告させていただき併せて先生の歩まれた道のほんの一部をご紹介しますさせていただきます。

先生は昭和四十年、草創期の白陵に赴任されて以来平成十六年に退職されるまで四十年の長きにわたり体育科教員、生徒指導部長等を歴任され白陵の礎を築かれました。特に柔道の先生として強烈な記憶をお持ちの卒業生も少なくないと思います。

先生は県立姫路東高校入学後柔道を始められ、練習にのめり込み、生来の負けず嫌いの性格と類い希な身体能力が相まって、すぐに頭角を現し名門天理大学に進まれました。大学時代は団体戦でもポイントゲッターとして活躍され数々の全国レベルの大会で優勝され、オリンピック

の候補にもなられました。卒業後岡山の紡績会社に就職されましたが、オリンピック予選で敗れたのを機に白陵で教職に就かれました。

当時、柔道場はおろか体育館もなく校舎の屋上に畳を敷いて練習していたそうです。真夏は立ってられないほど熱く畳に水を撒いてやっていたと聞きます。先生の夢は団体戦でのインターハイ出場でした。そのため練習はとにかく厳しく、夏休みも春休みも天理大学合宿、放課後も毎日七時、八時まで、たまに新日鐵への出稽古もありました。残念ながらその夢を実現させることはできませんでしたが、個人戦では何人もの兵庫県チャンピオンを輩出したのは間違いなく先生のご指導の賜です。また、柔道を通して多くの卒業生に他では得がたい薫陶を授けたのも先生のご人徳だと思います。

先生は白陵で指導する傍ら、兵庫県柔道連盟会長、高体連柔道部長等の要職にも就かれ高校柔道の発展に寄与され、その功績のため、兵庫県教育功労賞、兵庫県体育功労賞を受賞されました。私は先生が泣かれているのを二度見たことがあります。

一度目は、二期生が高三のときのインターハイ団体予選。当時個人戦の階級は、軽量級、中量級、重量級の三階級。すべての兵庫県チャンピオンが白陵、おまけに重量級の二位も白陵。団体戦（五人制）の大本命はもちろん白陵でした。しかし、決勝戦で敗れてしまいました。試合後陣を組んで先生が泣きながら「今日の試合は負けなければ決して人生には負けるな」と言って選手たちをねぎらいました。それを聞いていた柔道部員、OBたちは決してこの瞬間を忘れていません。

二度目は、十年程前、奥様が亡くなられたときでした。ご自宅に私が駆けつけたとき、横たわられている奥様を前に号泣されました。泣きじゃくられていました。普段決して優しく接しておられたとはいえなかったですが、強く結ばれていたのだと、私も涙しました。

最期の数ヶ月、危篤になったり回復したりを繰り返され苦しい思いをされたと思いますが、あの世で奥様に憎まれ口を叩きながらゆっくりされているでしょう。

副会長 町田直隆（十五期生）

2023年度文化祭を振り返って



生徒会 坪田 陸玖 (高2)

コロナ禍が明けて初となった今年の文化祭は、去年から大きく姿を変えたものとなりました。テーマは「新生」。コロナ禍以前の形に戻すのではなく、新しく生まれ変わった文化祭にしたいという思いで決めたものです。コロナ禍前の文化祭の盛り上がり方を知っているのは僕たち六十期生が最後の学年であったため、何としても後輩たちに白陵祭本来の盛り上がり方を伝えたい、そんな思いで文化祭を創り上げました。今年度は、白陵生全員が主体となって文化祭を創り上げるという目標を達成するために、文化祭実行委員会を復活させ、新たに文化部文化祭担当を設置しました。文化部文化祭担当というのは、各文化部から数人の代表者が集まり、文化祭について話し合うことにより、各部の展示をより良いものにし、文化部同士でコラボし、共同で何かを作成すると

このような企画を実行したりするということを目的とした組織です。初めての試みだったため、課題も多くありましたが、これからの文化祭に不可欠な組織だと感じました。また、今回の文化祭では、本当に多くの事を得ることができました。自分たちが決めた目標をやり遂げた時の達成感、自分たちの頭の中にあつた「こうすれば盛り上がるんじゃないか」ということを実際にやってみて、生徒の皆さんや外部から来て下さった方々が楽しそうに過ごしているのを見た時の喜び。文化祭に向けて、準備を進めるなかで、たくさんつらいこともありましたが、文化祭まで走り切った良かったなと心から思いました。しかしながら、まだまだ課題も残っています。今年新たに生まれた課題を一つ一つ解決していくことにより、文化祭はもっともっと良くなっていくと信じています。後輩たちには、「最高の文化祭」を更新していったほしいと思います。今年よかったから終わりではありません。今年が始まりです。今後、白陵の文化祭は大きく変わっていくと思います。後輩たちが創り上げる「最高の文化祭」にぜひ、一度足を運んでみてください。



白陵会 クラブ活動OB会活動助成金

白陵会は、以下の交付要件を満たすOB会活動に対し、予算の範囲内において1団体につき、30,000円を限度としてOB会活動助成金の交付を行っています。予算の上限に達した場合は、受付を締め切らせていただきます。

交付要件

1. 会員数が20名以上の健全な組織であること。
2. 会の規約が整備されていること。
3. 会員から徴収する年会費によって運営されていること。
4. 総会等の全体会合を年間1回以上開催し、活動状況が活発であること。
5. 白陵会本部の指示を遵守し連携に努めていること。

白陵会クラブ活動OB会活動助成金交付要綱と申請用紙を白陵会ホームページに掲載していますので詳細をご確認ください。ご不明な点は白陵会事務局までご連絡ください。

白陵会物故者

| | | |
|------------|---------|----|
| 藤田家将(旧職員) | 令和五年十二月 | 逝去 |
| 豊田正彦(旧職員) | 令和五年三月 | 逝去 |
| 山崎 直(五期生) | 令和四年六月 | 逝去 |
| 谷岡正也(六期生) | 令和三年九月 | 逝去 |
| 平田茂英(八期生) | 令和四年八月 | 逝去 |
| 川本哲也(十期生) | 令和五年五月 | 逝去 |
| 長澤 均(十一期生) | 令和六年二月 | 逝去 |
| 北尾 靖(十四期生) | 令和五年十月 | 逝去 |
| 丸山吉弘(二期生) | 逝去 | 逝去 |
| 田村太知(三期生) | 令和四年一月 | 逝去 |

心よりご冥福をお祈りいたします。

転退職教職員紹介

| | |
|----------|-----------------|
| 中谷文昭(国語) | 昭和五十六年四月～令和五年三月 |
| 木島行雄(理科) | 平成二十年四月～令和五年三月 |
| 尾崎清志(技術) | 平成二十八年四月～令和五年三月 |
| 竹原亮太(寮) | 平成三十一年四月～令和五年三月 |
| 中本茉莉(事務) | 令和二年四月～令和四年七月 |
| 井口直幸(国語) | 令和三年四月～令和五年三月 |
| 原 淳夫(技術) | 令和三年四月～令和五年三月 |

白陵会役員名簿

Table with 11 columns: 役名, 期, 氏名, 役名, 期, 氏名, 役名, 期, 氏名, 役名, 期, 氏名. Lists members of the White Ridge Association with their names and terms.

(令和6年3月1日現在)

白陵会News

Table with 11 columns: Date, Event Name, Location, Date, Event Name, Location, Date, Event Name, Location, Date, Event Name, Location. Details various events and activities of the White Ridge Association.

白陵生の活躍(二〇二三年) ※学年は表彰当時の学年です

大学入学試験合格者数

■国公立大学 ※「国公立大学合格者計」は準大学を含む

| 大学名 | R5年 | R4年 | R3年 | R2年 | 31年 | 30年 |
|----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 東京大学 | 16 | 20 | 15 | 15 | 15 | 18 |
| 京都大学 | 16 | 16 | 24 | 25 | 23 | 16 |
| 大阪大学 | 14 | 10 | 13 | 17 | 13 | 13 |
| 神戸大学 | 17 | 9 | 17 | 17 | 20 | 14 |
| 東京工業大学 | 1 | | 2 | 2 | 2 | |
| 一橋大学 | 1 | | 1 | 3 | 1 | 1 |
| 東北大学 | 1 | 1 | 2 | 1 | 3 | 1 |
| 名古屋大学 | 1 | 3 | 2 | 1 | 1 | 2 |
| 九州大学 | 3 | | 10 | 3 | 2 | 4 |
| 北海道大学 | 4 | 3 | 3 | 3 | 4 | 4 |
| 筑波大学 | 2 | 2 | | 2 | 1 | |
| 岡山大学 | 4 | 5 | 17 | 10 | 8 | 9 |
| 広島大学 | 2 | 7 | 5 | 6 | 5 | 6 |
| 大阪公立大学 | 9 | 8 | 9 | 2 | 7 | 8 |
| 上旧市立・下旧府立 | | | 5 | 5 | 5 | 7 |
| その他 | 70 | 55 | 59 | 66 | 62 | 62 |
| 合格者計 (内医学部) | 161 (39) | 139 (28) | 184 (48) | 178 (39) | 172 (62) | 165 (49) |

■私立大学

| 大学名 | R5年 | R4年 | R3年 | R2年 | 31年 | 30年 |
|----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 早稲田大学 | 24 | 20 | 22 | 19 | 25 | 15 |
| 慶應義塾大学 | 23 | 14 | 26 | 20 | 21 | 19 |
| 上智大学 | 4 | 3 | 7 | | 1 | 1 |
| 中央大学 | 8 | 5 | 2 | 2 | 9 | 8 |
| 東京理科大学 | 16 | 11 | 8 | 14 | 8 | 6 |
| 明治大学 | 7 | 4 | 6 | 1 | 11 | 2 |
| 関西学院大学 | 30 | 19 | 29 | 23 | 12 | 16 |
| 関西大学 | 19 | 19 | 17 | 6 | 4 | 8 |
| 同志社大学 | 35 | 12 | 57 | 31 | 44 | 43 |
| 立命館大学 | 32 | 26 | 35 | 28 | 15 | 23 |
| 京都薬科大学 | 8 | 1 | 6 | 6 | 5 | 6 |
| 大阪医科薬科大学(医) | 6 | 5 | 2 | 9 | 11 | 9 |
| 神戸薬科大学 | 2 | 3 | 4 | 4 | 7 | 9 |
| 兵庫医科大学 | 9 | 8 | 19 | 9 | 9 | 20 |
| その他 | 67 | 76 | 59 | 65 | 72 | 61 |
| 合格者計 (内医学部) | 290 (34) | 226 (28) | 299 (46) | 237 (41) | 254 (45) | 246 (59) |
| 卒業生数 | 180 | 189 | 189 | 186 | 188 | 186 |

令和4年度 収支決算報告書

令和4年4月1日～令和5年3月31日

単位/円

| 収入の部 | 予算額 | 決算額 | 差 異 |
|----------------|------------|------------|-----------|
| 前年度繰越金 | 16,487,895 | 16,487,895 | 0 |
| 会費収入 | 4,725,000 | 4,884,000 | △ 159,000 |
| 年会費(5年分)(58期生) | 2,745,000 | 2,700,000 | 45,000 |
| 年会費(1～52期生) | 1,800,000 | 1,986,000 | △ 186,000 |
| 定例総会会費 | 180,000 | 198,000 | △ 18,000 |
| 会費外収入 | 21,000 | 34,136 | △ 13,136 |
| 名簿収入 | 10,000 | 3,900 | 6,100 |
| 広告収入 | 0 | 0 | 0 |
| 利息収入 | 1,000 | 236 | 764 |
| 雑収入 | 0 | 30,000 | △ 30,000 |
| 寄付金 | 10,000 | 0 | 10,000 |
| 記念総会積立金繰入収入 | 0 | 0 | 0 |
| 合 計 | 21,233,895 | 21,406,031 | △ 172,136 |

| 支出の部 | 予算額 | 決算額 | 差 異 |
|-----------|------------|------------|-----------|
| 事務費支出 | 555,000 | 228,887 | 326,113 |
| 会費管理手数料 | 130,000 | 137,676 | △ 7,676 |
| 消耗品費 | 50,000 | 3,000 | 47,000 |
| 印刷費 | 50,000 | 49,005 | 995 |
| 通信費 | 300,000 | 32,496 | 267,504 |
| 支払手数料 | 20,000 | 6,710 | 13,290 |
| 雑費 | 5,000 | 0 | 5,000 |
| 会議費支出 | 450,000 | 285,384 | 164,616 |
| 理事会費 | 200,000 | 96,764 | 103,236 |
| 役員会費 | 150,000 | 188,620 | △ 38,620 |
| 委員会費 | 100,000 | 0 | 100,000 |
| 事業費支出 | 2,200,000 | 2,273,175 | △ 73,175 |
| 定例総会費 | 600,000 | 827,110 | △ 227,110 |
| 名簿発行費 | 0 | 0 | 0 |
| 会報発行費 | 1,100,000 | 1,080,294 | 19,706 |
| ホームページ維持費 | 100,000 | 61,004 | 38,996 |
| 卒業記念品費 | 250,000 | 199,789 | 50,211 |
| 慶弔費 | 150,000 | 104,978 | 45,022 |
| 備品費支出 | 0 | 0 | 0 |
| OB会活動助成金 | 300,000 | 90,000 | 210,000 |
| 渉外費支出 | 110,000 | 28,010 | 81,990 |
| 予備費支出 | 100,000 | 199,800 | △ 99,800 |
| 寄付金 | 0 | 0 | 0 |
| 小計 | 3,715,000 | 3,105,256 | 609,744 |
| 記念総会積立金 | 200,000 | 200,000 | 0 |
| 学校寄付積立金 | 500,000 | 500,000 | 0 |
| 次年度繰越金 | 16,818,895 | 17,600,775 | △ 781,880 |
| 合 計 | 21,233,895 | 21,406,031 | △ 172,136 |

令和4年度 会務報告

| 実施日 | 内 容 | 場 所 |
|-----------|--|-------------|
| 令和4年5月24日 | 理 事 会 | 姫路商工会議所 |
| 令和4年6月12日 | 白 陵 会 定 例 総 会 | ホテルモントレ姫路 |
| 令和4年11月3日 | り ょ う ゆ う 会 | 相生カントリー倶楽部 |
| 令和4年11月5日 | 理 事 ・ 役 員 会 | ホテルモントレ姫路 |
| 令和4年11月9日 | 学 園 創 立 6 0 周 年 記 念 式 典 (会 長 ・ 副 会 長 出 席) | 白 陵 高 等 学 校 |
| 令和5年2月11日 | 第58回白陵高等学校卒業式 (会長・副会長出席 卒業記念品贈呈) | 白 陵 高 等 学 校 |
| 令和5年3月 | 会 報 第 4 2 号 発 行 | |

編集後記

「辰」「ふるえる」の意味を持ち、草木が震えながら芽を出す様子を示すともいいます。その「ふるえる」年の初めに大きな「震え」が能登を襲いました。その「震え」を感じながら、一九九五年そして二〇一一年の記憶が呼び起こされました。数日後のテレビで被災した高校生がボランティアとして避難所で幼い子どもたちのケアをしている場面が映りました。とても印象深いものでした。被災者支援に関する国際的な基準「通称「スフィア基準」」災害関連死防止の基準ですが、日本の避難所はそれを満たす状況ではありません。私たちはできる形で、できることをしていかなければと思います。そして白陵会関係の首長・議員の皆さん、ぜひ「スフィア基準」に沿った支援システム構築に「尽力」をお願いします。

T M